

大峰奥駆の山 2016/11/25/Sat-26/Sun

# かぎろいと残り紅葉と樹氷・釈迦ヶ岳 1,799.9m 西行法師が振り返った奥駆道・笠捨山 1,352.7m

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一 同行：川原薰



樹氷の孔雀岳

今年最後の紅葉を求めて大峰奥駆道に入った。

前夜から太尾登山口に入る。20台は停められそうな広さの駐車場とトイレがある。トイレはバイオ処理されているらしく、全く臭いがない。手洗いは天水利用で、カランをひねると洒落た手水鉢にチョロチョロと流れる。この夜は我々だけしかおらず、満天の星を眺めながらの車中泊となった。

## 釈迦ヶ岳から七面山へ

### 11月25日（土）晴れ

日の出前、車を出る。緩やかな稜線を辿っていくと、東の山際が茜色を指し、空の蒼が混じってかぎろいとなる。

冬枯れの中に僅かな紅葉が残っている。

明けきる頃に樹氷が目立つ辺りに入る。昨夜の放射冷却で見事な枝ぶりとなった。大日岳は冠雪していて真っ白だ。樹氷越しに対面の山肌の残り紅葉が見事だ。



釈迦ヶ岳山頂

釈迦ヶ岳手前の樹氷のトンネルを潜ると山頂に立った。ここへ来るのは初めてだが、写真で見たお釈迦様の銅像が今日も微笑みを湛えて南の大日ヶ岳を眺めて

おわす。

若者が一人息を切らして登ってきた。我々が先に進むことを聞くと彼も行きたそうにし、後から来るかもしれませんと宣う。奥駆道はお釣迦様の左手（向かって右）側から北へ続いていて、ここからは真っ逆さまに下っている。先日来の寒波による雪が残っており、北風に吹かれてクラストしている。若者よ、危ないとthoughtたら来ないが良い（結局彼は来なかった）。

キックステップで鞍部まで下りきると一息つける。道は岩稜や笹原が交互に現れ、巻いたり登ったりが続く。孔雀岳分岐を右手にやり過ごし、ゴツゴツの石の道を進む。樹林で鬱蒼とした仏生ヶ岳への分岐もやり過ごす。今日はとにかく七面山に到達したい。



両部分け過ぎ辺りから釣迦ヶ岳を振り返る

楊子ノ森 1,693m は七面山への道を山頂の南側で分けると地図にある。国土地理院地図には西側（から）の道しかない。左へ踏み跡らしきものを踏んでいくとやがてガレに阻まれた。改めてピークへ向かうが、連れ合いの元へ帰ろうの声に従い、東側の巻き道へ入る。

ピークの北側へ出て七面山への分岐を散々探すが見つけられない。いつもなら検討をつけて踏み入るのだが、今日はもう時間がない。時は 11 時 30 分、ここから釣迦ヶ岳まで 3 時間 20 分、そこから登山口まで 1 時間 40 分、下山と同時に日暮れだ。安全地帯の釣迦ヶ岳まで行き、残りは夜道を歩けば、七面山往復の 2 時間

10 分を稼げはする。だが、大峰でのこれ以上のルートファインディングをこの時期に行なうことは非常に危険と判断。避難小屋に泊まる気もないし、帰ろう。



樹氷越しに七面山を見る

七面山を止めにしたら時間に余裕が出てきたので、楊子ヶ宿小屋を借りて昼食とする。小屋は無人で、よく整備されて清潔、小屋裏（ロフト）と 2 層をなし、上下で 40 人ほどは泊まれそうだ。太尾登山口のトイレといい、ここといい、世界遺産に指定された賜物だろうか。いずれにしても地元の方々の尽力が有り難い。

帰りは往路でやり過ごした仏生ヶ岳に登ってみる。鬱蒼とした樹林の中、雪の中に山頂はあった。同じくやり過ごした孔雀岳は展望の好立地で、孔雀覗と名付けられた岩の上からは屏風岩、五百羅漢と地図に記載のある辺りに奇岩が屹立しているのが見えた。

釣迦ヶ岳を越え、精神的にも安定し、千丈平の水場で「かくし水」をいただく。広大な笹原では 3 頭の牝鹿を連れ、立派な角の牡鹿が食む。古田ノ森から振り返り、来し方を見る。十津川村の向こうには大きな茜の夕陽が沈もうとしていた。

太尾登山口	06:20
08:25 釣迦ヶ岳	08:50
11:30 楊枝ノ森北斜面	
12:05 楊子ノ宿小屋	12:45
13:25 仏生ヶ岳	
14:10 孔雀岳	14:20
15:30 釣迦ヶ岳	
17:05 太尾登山口	

この日は道の駅十津川郷の小さな駐車場に車を停めた。近くには温泉もあったが、道の駅の足湯で満足し、ビールとウイスキーをいただきて恍惚の人となり車中泊した。



釈迦ヶ岳コース概念図

## 行仙山から笠捨山へ

11月26日（日）晴れ  
乙姫（みほとけ）がここにはおわす上竜宮谷

1,998年8月15日、芦迺瀬川を遡行した。この川を登り詰めればどこに出るか。幾つかの答えがあるが、途中で笠捨谷に入り笠捨山に出ることもできた。当時は芦迺瀬川本流を遡ることが目的だったので笠捨山には至らなかったが、この時から「笠捨」という響きが何故か心に残っていた。

道の駅を出て、芦迺瀬川沿いの県道425号線に入り、北上する。白谷トンネルで十津川村から下北山村に出る。トンネルの東口にPがあり、ここに車を停めて行仙岳へ続く鉄階段に取り付く。

淡々と45分も登ると稜線に出、そこから僅かで行仙岳に着いた。趣のある枯れ木に山頂を示す標識が掛かっており、修験者が置いたと思われる札が幾つも並んでいる。大きな鉄塔が建ち、作業員が業務中で、カンカンと鉄を叩く音が途絶えない。北方に昨日登った釈迦ヶ岳が霞み、南方にはこれから目指す笠捨山の黒い山体が近い。

行仙宿山小屋を経、陽溜りの稜線の小ピークを幾つか越えると笠捨山の黒い山体がグッと近づいた。最後の登りは少し大きく、登り詰めるとやがて緩やかな稜線にたどり着いた。



笠捨山山頂の祠

まず、東方を踏み、次に西峰1,352.7mを踏む。山頂には祠があり、不思議な陣がそれを囲む。ここでも山頂を示す標識は枯れ木に掲げられており、その前で写真を撮る。



何故か枯れ木に山頂標識が目立つ  
ここから笠捨谷方面を覗くと深く切れ  
込んでいる。笠捨谷から来る沢筋の道は  
(あるとすれば) おそらく槍ヶ岳と名付  
けられた西北のピークとここ笠捨山との  
間の鞍部に突き上げてくるのだろう。

芦廻瀬川は美しい川である。右岸から  
合流する上竜宮谷はビードロの青のよう  
な水の色をして、18年前に思い切り泳ぎ  
渡った焼嵩淵は水の色が重なった深緑色  
をしていた。あれから土砂の堆積や流失  
を繰り返し、最近では歩いて渡れる時が  
あると聞く。そこから狼返しの滝まで樂  
しむと手前で左岸から笠捨谷が合流する。  
道があるかないか判らない谷に踏み込み、  
ブッシュを漕ぎながら笠捨山に登り詰める。  
白いヘルメットを被って汗だくで登  
ってくる自分を一瞬妄想した。

登山口 P 08:14  
09:08 行仙岳 09:25  
11:20 笠捨山 11:50  
13:00 佐田ノ辻  
13:43 登山口 P



帰りは佐田ノ辻・行仙宿小屋から右へ  
採り、僅かで林道に出、車に戻った。北  
山村の道の駅で貸し切りの露天ぶろを味  
わい、さっぱりとして帰路についた。

END